
一つの魔法(仮)

籾也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一つの魔法（仮）

【コード】

N7758G

【作者名】

籐也

【あらすじ】

自称魔法使いの少女と自称平凡な少年が織り成すストーリー（予定）

題1話(前書き)

久しぶりに小説を書きたくなったので書きます。

大体のあらすじは決まっているけど、プロットを立てて書いているわけではないので、どんな展開になるのか作者も予測できませんw
無事に完結できたらいいなと思っています^^；

題1話

大智はこれといった特徴の無い青年だった。

学力は学年で常に上位で、どのスポーツもそつなくこなし、ルックスもそこそこ良いわけだが、ずば抜けて秀でたものがあるわけではなく、大智本人も自分は平凡な人間だと認識していた。

特に目標があるわけではなく、淡々と日々を過ごしていく自分に何も疑問を抱かず、敷かれたレールを走るだけの電車のような人生だが、そんな人生が嫌いではなかった。

このまま大学に進学して、社会人になって、いつか家庭を築けたらいいなと漠然とした夢というか将来になればいいと思っていた。

道の脇に生えている雑草のように誰にも注目されることなく、しかし真面目にこつこつと生きていた大智のとある一日だった。

塾での講習が終わり、帰路に着く頃には夜10時を回っていた。外灯の連なる道を一人で歩き続けていた。辺りに物音はなく、自分の足音だけが時計の秒針のように正確なリズムを刻み続けている。塾で習った公式の一つを思い出そうとした時

ふと、足音が止まる。

振り返って、耳を澄ましてみる。

微かに聞こえる、悲鳴。

止まっていた思考をリブートさせる。ブートに少し時間がかかり、やがて正常に動作を始めた。冷静な思考で考えてみる。あの悲鳴はなんだろうと。

しかし考えても答えが分かるわけではなく、答えが知りたければ悲鳴の元に向かえばいいだけなのだが、それをする気はさらさらなかった。

面倒なんだ、基本的に。他人のやつかいな部分に関わりたくなかった。そうやって今まで生きてきたし、これからもそうさせてもらうつもりだった。

だから大智は帰路に向きなおし、足を進めようとしたがそうはさせてくれなかった。

足音が、こちらに向かって、少しずつ大きく響きながら、鼓膜に伝わってくる。

そして暗闇の向こうから、白い物体が徐々に鮮明になりながら、視界に映る。

鼓動が僅かだが高まった。

白いマントのようなものを羽織った、おそらく人間が、大智に向かって走っている。

呼吸を乱しながら必死に駆けつけてくる真剣な表情が、一瞬だけ確認できた。

女だった。

女性は大智の元まで辿り着くと背後に回りこみ、身を屈めた。呼吸を整えようと一生懸命息を吸って吐いて、それを繰り返している。そんな女性になんて言葉をかければいいのか、大智は考えていた。

何があったのか、それを尋ねればいいんだと当たり前の結論に達し、大智が口を開きかけようとして、今まで俯いていた女性が顔を上げた。

お互いの目が合う。

これまで、様々な人間の目を見てきた。それは生きていれば当然だし、わざわざ気にかけたことは一度もなかった。自分が特別な人間だと思ったことはないし、他人を特別な人間だと思ったこともなかった。

生きているモノはそのうち死んでいなくなる、そんな大前提の中で、ただ過ぎてゆく大智の人生の中でたった一度

視線が交じり合ったこの刹那は、世界でたった一つしかない特別なものを感じた。

自分が何者か分からず、今朝の朝食は何だったのか思い出せず、1+1ですら答えられないような全てを無に帰す、女性の瞳。

その目がゆっくりと細められ、微かに浮かべた涙に気がつき、大智は急速に思考を取り戻した。浅い眠りから急に目覚めたような、そんな感覚。

やがて女性は口を小さく開き、呟くように、しかし一字一句聞き間違えないようなはつきりとした口調で言った。

「助けてください」と。

雲に隠れていた満月が半分ほど現れた間におきた出来事だった。

その直後、こちら向かってくる複数の足音が鳴り響いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7758g/>

一つの魔法(仮)

2010年10月13日17時14分発行